

初めての挫折を乗り越えろ

校長 武井 正明

横綱大の里が、今まで味わったことのない苦境に立たされている。

私はやはり、先場所の左肩脱臼が、大きく影を落としているのではないかと推察する。

しかし、横綱は一切それを口にしない。ケガを言い訳にせず、原因をあくまで自分自身の弱さだと答えている。

2年前は、まだ鬚も結っていなかった。本人も驚くほどの猛スピードで出世街道を駆け上がってきた。身体は2年前とは比較にならないほど大きくなり、馬力も増した。しかし、好事魔多し。最も恐れるべきは、ケガだ。

若手中堅上位陣の実力が拮抗している今場所は、取り直しが多く、危ない落ち方をする取組も多い。年六場所というのは、力士にとって、相当過酷な状況だと同情する。これまでも、数多くの力士がケガをきっかけに、大きく番付を落とした姿を見てきた。

大の里には、もう退路はない。進退は自分で決めねばならない。

横綱にとって、今は相撲人生初の、挫折の時なのだと思う。

表情は虚ろになり、あれだけ強固だった自信がグラグラ揺れているのが背中から伝わる。

しかし、弱音は吐けない。常に勝つことが義務付けられている。横綱は孤独だ。そして、横綱となった今も、大の里は自分の弱さと向き合い、闘っている。

連日仏壇の親父に祈る。大の里が大変なことになってるよ。助けてやってくれよ…。

写真の親父は笑顔だ。生きていたら、何と言うだろう。生前は「だらしないね」と、最良の大の里には厳しかった。でもきっと今は、気が気でないはずだ。

私は、順風満帆で人生を歩んでいる人を羨ましいと思うが、大きな魅力は感じない。

今の苦しみを乗り越えた先の、更に大きく成長した大横綱の雄姿を見たい。

能登の人たちは、あなたを自分に重ね合わせ、これからも復興に向けて頑張っていく…。

横綱大の里関よ。

死に直面していた父に、喜びと希望を与えてくださった横綱大の里関よ。

これくらいの苦境を、あなたが乗り越えられないわけがない。

あなたには、これからも皆の希望の星であり続ける天命があるのだ。

怖れるな。怯むな。今こそ初心に帰れ。

あなたには俺たちファンがついている。何があっても横綱の味方だ。